

献学60周年記念事業
ホームカミング・イヤー記念シンポジウム

21世紀を拓くリベラルアーツ
(リベラルアーツ21)

献学60周年の中心年である2013年度をホームカミング・イヤーと位置づけ、10月と11月に、二つのホームカミング・イベントを実施します。シンポジウム「21世紀を拓くリベラルアーツ」はその第1弾として10月に開催されます。

日 時: 2013年10月12日(土)10:00～17:30
会 場: 東ヶ崎潔記念ダイアログハウス 2階 国際会議室

人々と文化の多様性をより鮮明に認識させられる今日、我々は、とてつもない自然の力と科学・技術の力の相克を肌で感じています。今の時代、21世紀の若者には、社会科学、自然科学、人文科学を幅広く学び、課題を明確化し、それに取り組む手法を身に着け、さらには人間力で勝負ができる努力が求められているのではないのでしょうか。リベラルアーツ教育そのものと言えるでしょう。しかし、リベラルアーツ教育の現場は、少人数制が中心となることから財政をはじめ、多くの課題があります。また他方で、新しい時代独特の早期専門教育の要請もあり、大きなチャレンジを突き付けられているのが現状ではないのでしょうか。

M.C. 榊原 節子
10:00 開会挨拶: 日比谷 潤子
10:10 趣旨説明: 三好 正夫

【21世紀のリベラルアーツ教育の諸課題と展望】

10:15～11:15 基調講演 Jeffrey W. Cason
<http://www.middlebury.edu/newsroom/experts/cason/node/22281>
11:15～12:15 パネルセッションI 座 長: 高橋 一生
パネリスト: Prof. Jeffrey W. Cason
伊東 辰彦
松本 健
ICU学生

アメリカのリベラルアーツ・カレッジの中でも、常に全米ランキング 5位以内にランクされるMiddlebury Collegeは日本の複数の大学と交換留学を行っていましたが、2010年に ICUのみを日本の協定留学先とし、ICU のダイアログハウス内にミドルベリー大学日本校を開設しました。JLP(日本語教育プログラム)が充実されているだけでなく、ともに学び、暮らす中で文化の違いを感じながら、一つの目標に向かって協力して何かをやり遂げるという日本の他の大学にはない環境がICUにあるという理由からでした。ICUの国際教育交流を深く理解し、リベラルアーツとは何かをあらためて実感するのに相応しい、Dr. Jeffrey W. Cason, Dean of International Programs, Middlebury Collegeに基調講演をお願いし、パネルディスカッション、分科会ディスカッションを通し、21世紀のリベラルアーツの諸課題を探り、今後の方向の展望を試みます。

【ビジネスとリベラルアーツ】

13:30～13:50	発 題	有馬 利男
13:50～14:40	パネルセッションII	座 長: 白石 隼男 パネリスト: 有馬 利男 三好 正夫 北城 恪太郎 ICU学生

企業の社会的責任が大きな課題となって久くなる今日、グローバル化した市場で勝負する企業は幅の広い知識と柔軟な知性を必要としています。さらには古くて新しい課題である人間力の重要さに光が当てられてきています。これらの要素が複合的に作用しているからでしょうか、リベラルアーツ教育にビジネス社会から大きな期待が寄せられるようになってきています。この点に焦点をあてて、リベラルアーツ教育の課題を掘り下げてみます。

【大学院およびプロフェッショナル・スクールとリベラルアーツ】

14:40～15:10	発 題	小尾 尚子、瀬尾 港二
15:10～16:00	パネルセッションIII	座 長: 横田 洋三 パネリスト: 小尾 尚子 佐々木 輝美 瀬尾 港二 長尾 眞文 ICU大学院生

リベラルアーツ教育を受けた人たちの大学院もしくはプロフェッショナル・スクールへの進学率は他の大学教育を受けた人たちに比べると格段に高い傾向があります。学部から直接大学院もしくはプロフェッショナル・スクールに行く人、社会人経験をしたうえで進学する人、またかなり多くの留学する人など多様です。大学院もしくはプロフェッショナル・スクールとの関係でリベラルアーツ教育がどのような課題があるかを掘り下げてみます。

【21世紀を切り拓くICUのリベラルアーツ】

16:10～16:30	発 題	森本 あんり
16:30～17:20	パネルセッションIV	座 長: 野村 彰男 パネリスト: 森本 あんり 大森 晶夫 白石 隼男 ICU学生

神と人ともに奉仕する人々を育成するために創立されたリベラルアーツ教育を中心とするICU。この60年で多くの優れた人々を排出し、世界の隅々まで彼らの活動は及んでいます。課題が山積する21世紀の地球社会でICUの卒業生の活躍は国際社会からさらに一層期待されています。その期待に応えるために、これまで積み上げてきたICUのリベラルアーツの何を重要な遺産として残し、どのような革新を図ることが必要なのかを、今までのセッションでの議論をも踏まえつつ探ります。

17:20 閉会挨拶: 高橋 一生